

令和7年度北区立さくらだこども園 学校関係者評価報告書

令和8年2月24日(火)

学校関係者評価委員会 委員長

1. 学校関係者評価委員会の構成

委員長	PTA会長	PTA役員	PTA役員
委員	PTA副会長	PTA役員	PTA役員

2. 学校関係者評価委員会の主な活動

日時 令和8年2月6日(木)
 場所 本園
 協議内: ○学校関係者評価の説明
 ○自己評価の結果報告
 ○評価表配布・記入

A: 評価は適切でもっと高くてもよい
B: 評価は適切である
C: 評価は不適切である(もっと低い)
D: 資料が不足していて評価できない

3. 学校関係者評価の結果と分析

※指標は、4段階評価

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的 方策	指標		次年度の改善策	学校関係者評価	
				努力	成果		評価	評価についての意見
教育課程	一人一人に応じた教育の充実	基本的な生活習慣や態度を身につける	一人一人に応じた丁寧な指導を行う	3.9	3.2	○預かり保育の時間でも生活習慣の指導のポイントを週案、年間計画に入れる。 ○全体指導と一人一人に応じた指導をし、幼児が必要感を感じて自分からできるようにする。 ○幼児が自分から取り組む姿を認める。 ○家庭と連携した一貫性のある指導をする。	A: 3人 B: 3人	・園側はいろいろ工夫しているが、保護者会不参加の保護者も多い気がする。そこに対しての共有、連携を考えてもらえるといい。 ・評価は適切だが、家庭での取り組みが大きい部分でもある。家でできることは家でできるように、もっと伝えてもいいと思う。 ・1号児は教育時間における活動を担任を通して知ることができるが、2号児の保護者にもうまく伝達できる方法を見付けられるといい。 ・預かり保育の時間の年間計画にも入れるのはうれしい。
		活きる力を支える意欲・体力・技能を身に付ける	実態に合わせてねらいをもった具体的な遊びの提示により意欲・体力・技能を育てる	3.6	3.5	○幼児がしていること、できたことを言葉にし、幼児自身が意識できるようにする。 ○教育時間でしたことを預かりの時間でも取り組めるように環境を作る。 ○研究してきた運動遊びについて、今後も保育に取り入れられるように指導計画に入れる。	A: 2人 B: 4人	・教員自己評価を見たが、教師や友達との関わりをもつ機会をつくらうと努力している園の姿勢は素晴らしいと思う。 ・一年一年、子どものしっかりとした成長が見られる。関わり方が上手でありがたい。
		直接的・具体的体験の中で試行錯誤し、思考力・判断力を培う	具体的体験を通して考える力や表現する力を育てる	3.3	3.2	○幼児が考えたことに沿って保育を展開し、探究心を育む関わりを意識する。 ○幼児が自ら考えて行動することによさが感じられるようにする。 ○日々の活動、行事の準備・片付けへの幼児の関わり方を事前に考え、生活体験を重ねられるようにする。	A: 3人 B: 3人	・自然に触れることがなかなかできにくいご時世の中、その辺を大切にしてくれていて、食育にもつながっていて素晴らしいと思う。 ・子どものしたいこと、考えたことをベースに活動しているのが伝わってくる。 ・今年度は虫の観察など、自然と関わるが多くよいと思う。 ・具体的な体験、運動だけでなく自然との関わりも多く、また行事もたくさん経験しているのが教員自己評価からも分かるので、もっと高く評価したい。
		人と関わる楽しさや喜びの中で他者を理解する思いやりの心を育てる	異年齢交流や地域など人と関わる機会の充実を図る	3.3	3.4	○行事とともに日常の関わりを教師が意識して取り入れていく。 ○自分から人に関わりにくい幼児にも、人と関わる楽しさが感じられるような一人一人に合わせた援助をする。 ○交流計画を実践するときに、互いのねらいを共有し、実態に合わせた進め方をする。 ○園内での友達の保護者や弟妹への関わり方を具体的に知らせる。 ○地域の方とはできるだけ直接関わる機会をつくる。	A: 3人 B: 3人	・2学年になったことにより人数も減ったが、子どもから異学年交流の話を聞くことが増え、よい。 ・2学年になったことで、4、5歳児のペアによる活動を多く取り入れることを期待している。 ・2学年になった状況でも、できる範囲で最大の関わりを行っているように感じる。
		他者とともにある生活の中で、個々の違いを受け入れ他者理解の力を育む		3.9	3.0	○その場での具体的な指導で、相手の気持ちや関わり方を知らせた上で、幼児が自分で考える時間を作る。 ○それぞれの思いがあること、違いがあることについて学年に応じて指導していく。 ○相手にとってよい言動を認める。 ○トラブルがあったときに個別に指導するとともに、園や学年・学級全体で指導内容を共有する。	A: 1人 B: 5人	・現在の対応で十分できていると思う。 ・年齢に合わせてしているところがとてもよい。 ・教員自己評価を読んで、様々な文化、持病のある幼児、多様な幼児への対応に努力している教師の姿に感動している。

		職員の資質の向上を図り、教育力を高める	長時間保育を含めたこども園運営に向けて、教育方法や内容を共有する	3.9	3.7	○教育時間と預かりの時間で幼児の様子を共有できるようなメモやノートを作る ○担任と長時間担当者が相互に情報を得るように意識し、幼児の生活をつなげて考える。 ○月に2回の学年会で指導の方向性を共有する。	A:1人 B:5人	・全教職員で把握してくれているといい、と感じるときがある。 ・教育時間と預かり時間での幼児の様子を共有しようと努力する姿に感謝。ただ、先生たちの負担が増えていく一方なので、無理のない程度でと思う。
地域との連携	進捗を確保者・地域との連携の推進	家庭や地域との連携の充実	教育内容の公開や情報の発信	3.1	3.6	○保育内容の掲示については、事前に計画しておき、無理なく実行できるように役割分担する。 ○写真やコメントで、幼児が伝えられない内容も保護者に伝わるように心掛ける。 ○情報発信については方法がいくつもあるが、全員に届けられるように工夫する。	A:2人 B:3人	・保護者会などを通して、園での様子を担任から聞く機会があったので、すごくよかったと思う。 ・いつもいろいろな活動を掲示してくれているので助かっている。
		学校サファミリーとの連携・接続の強化	共同研究や交流活動の充実	3.1	3.6	○幼児には回数を重ねることが親しみにつながるので、年度当初に小学校と年間予定を計画する。 ○こども園と小学校の担任同士で、内容やねらいについて事前事後の話し合いをする。 ○学校ファミリー研修会の日に対面で打ち合わせができるよう計画する。	B:6人	・次年度も期待したい。 ・小学校交流があるのはとてもよいと思う。 ・小学校との関りは子どもにとってもいい影響があると思ったので、今まで通りどんどん進めてほしい。 ・実態が分かりにくい。もう少し説明があるとよい。 ・小学校との連携は重視してほしい。
	育学校の推進	幼保小連携の充実	互いの施設を訪問し、理解を深める	3.4	3.8	○関わりが楽しめるような内容や進め方の工夫をする。 ○回数を重ねられるように、年度当初に年間予定を話し合う。 ○新しい状況に緊張する幼児を丁寧に支える。	B:6人	・子どもから楽しかった様子が聴け、また交流した園に通う保護者からも話が聞け、とてもよい経験ができていていると思う。
子育て支援	地域に開かれた幼児教育の推進	子育て支援センターとしての機能の充実	保護者支援のための預かり保育の実施	4.0	3.3	○教育時間とつながる預かりの時間のあり方を担任も含めて検討する。 ○幼稚園卒の幼児が減ってきているので、なかよしタイムの日数を検討する。 ○保護者支援について教員が学ぶ機会をつくる。	A:1人 B:5人	・なかよしタイムの日程が選べるのはよいが、締め切りが前月の半ばまでなのは予定が立てにくいと感じる。 ・なかよしタイムを何度か使ったが、とても助かった。日数が増えるのありがたい。 ・なかよしタイムの日程が増えて助かっている。 ・保護者支援を教職員が学ぶことは大切だと思うので、学んだ内容など教えてほしい。
			未就園児の会の充実を図る	3.5	2.9	○在園児と未就園児が直接関わる機会をつくり、在園児にとっても年下の幼児と出会う機会とする。 ○地域に周知できるように、配布できるお知らせを作る。 ○未就園児の会はどの日も年齢制限なく参加できるようにし、参加者が増やせるようにする。	A:1人 B:5人	・未就園児の会に入園前に何度か参加した。施設については分かって、実際に入園した後にどういことをする園なのかは分かりにくい印象があった。 ・こども園のよさを親子に知ってもらうチャンスなので、お話会や親子体操などのイベントが月1回程度あるとうれしい。他の区立幼稚園に行ったときにイベントがあって飽きなかった。 ・改善案でも出ているように参加人数がもっと増えたらよいと思ったので、周知方法を検討し知ってもらうことができ、増えるといいと思う。

4. 改善の方策についての意見

	項目	具体的方策への意見
教育課程	時期・発達に合った生活習慣に関わる指導を積み重ね、自立を促す	保護者会不参加の保護者へも必要なことを伝えるようにして欲しい。特に2号児の保護者に伝わるような方法を見つけて欲しい。
	実態に合わせてねらいをもった具体的な遊びの提示により意欲・体力・技能を育てる	教師、友達との関わりをもつ機会をつくる努力を継続してほしい。
	具体的体験を通して考える力や表現する力を育てる	・運動遊び、自然に関わる機会を大切にしていることがよい。今後も続けてほしい。 ・子どものしたいこと、考えたことを基にして教育・保育活動することはよさ。
	・異年齢交流や地域など人と関わる機会の充実を図り、よりよい行動の仕方考える力を育む ・他者とともにある生活の中で、個々の違いを受け入れ他者理解の力を育む	・2学年になったが、異年齢交流の機会をもつ努力をしている。より充実させていけるとよい。 ・年齢に合わせて人との関わりを知らせているところはよい。
	担当学年の教育・長時間保育のスキルを高め、こども園の教育保育を充実させる	・教職員間での情報共有を、今後も心掛けて欲しい。 ・教育時間と預かりの時間とでの幼児の様子情報共有は今後も大事にして欲しい。
地域との連携	教育内容の公開や情報の発信をする	・保護者会などを通して園での様子を担任から聞けるのはよい。 ・今後増々、2号児の割合が増えるので、2号児保護者にも1号児保護者に伝えているように園での幼児の様子、教育時間での保育内容、教師の関わりなどを伝えられるとよいと思う。
	・共同研究や交流活動の充実 ・互いの施設を訪問し、理解を深める	・小学校との交流は子どもにもいい影響があると思うので、継続してほしい。 ・実態が分かりにくいので、もう少し分かりやすく説明があるとよい。 ・近隣保育園の子どもとの交流は子どもにとって楽しい機会であると感じられる。
子育て支援	保護者支援・幼児の生活の質向上のための預かり保育の実施	・なかよしタイムは日程が増え、使いやすくなった。 ・なかよしタイムの申込時期が早く、予定が立てにくいところがある。 ・教職員が保護者支援を学ぶことはよいことだと思う。
	未就園児の会の充実を図る	・未就園児の会に参加しても、施設は分かるが入園後の教育内容は分かりにくいと感じる。 ・こども園のよさを知ってもらう機会だと思うので、行きたくするようなイベントが月1回程度あるとよい。 ・こども園が知られ、参加者が増えるといいと思う。